

中国帰国者二三世質問紙調査の結果概要

公益財団法人 中国残留孤児援護基金

令和2年5月

中国帰国者二世質問紙調査の結果概要

(公財)中国残留孤児援護基金

1. はじめに

中国帰国者二世の多くは来日後 20-30 年を経て、既に老年期にさしかかっている人もいる。この間、特に成人以降に帰国した二世(その多くは初期に集中的な日本語教育の機会を得られなかった自費帰国者)が日本語の伸び悩みから不安定な就労状況に甘んじている例や、日本語が優位(または唯一の使用言語)となった三世との間で意思疎通上の困難に起因する問題などを少なからず耳にしてきた。今後のあり得べき支援を考えるために最近の彼らの状況とニーズを把握する必要を痛感し、全国に散在している二世に対する質問紙調査を行った。

2. 調査の方法

2-1.方法…質問紙調査+ウェブのアンケートサイト ※結果により必要に応じて面接調査を行う予定

2-2.対象…中国残留孤児援護基金が把握している帰国者世帯のうち、郵送物の送付を可としている二世個人全員宛に調査票を送付(約 600 件)及び同上の一世世帯にも調査票を送付し、二世に回答を依頼してもらう(約 2700 件)。質問紙にアンケートサイトの QR コードを貼り、サイト上での回答もできるようにした(紙とサイト上の二重回答を排除するため、事後にチェックを行った)

2-3.期間…2019 年2月から3月末

2-4. 調査項目

現況(住所、世帯状況等)/就労(就労歴、職種、就業形態等と経済的自立状況)/日本語(会話力、学習歴、ニーズ、言語環境等)/情報(入手困難な情報、ニーズ、媒介言語)/等 →調査票は文末の資料1

3. 結果

3-1. 件数

・回答総数 1149 うち有効回答総数(部分回答の一部有効も含む) 1059 ※うちウェブ回答 81 件
※無効回答中に一世が本人のことについて回答 70 数件、二世のことを代筆した回答十数件あり

3-2. 回答者属性

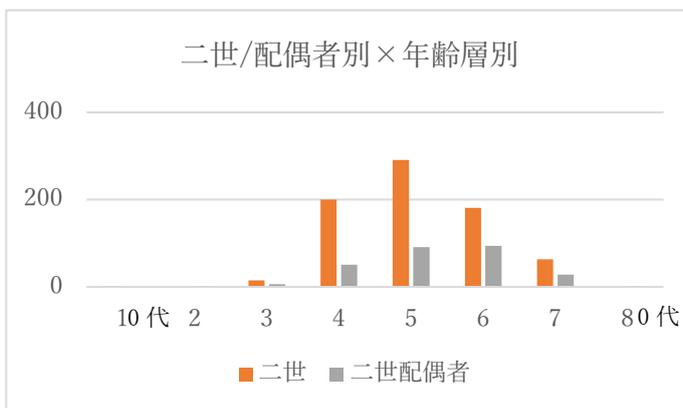
前提 …そもそも連絡先を把握できていた二世の数が少なく、また、調査票を手にした人の中で回答してくれた人は何らかの支援を求めているからこそ回答してくれた可能性が高い。自由記述回答の長文に現れている(文末参照)。それ以前に紙の質問紙を郵送する煩雑を厭わない人からの回答に限られるという偏りも大きい。日本語に困っていない人や幼少時来日の「帰国者」帰属意識のない人は回答しなかった可能性が大きい。→回答者に「困っている人」かつ回答する時間的余裕のある人率が高い

出生地…そもそも日本生まれで回答してくれた人は非常に少ない。また、実際には日本生まれでも日中間を行き来して育った場合、二言語の習得状況が複雑になるが、これは個別に面接をしないと見えてこない→日本生まれの人を今回の分析対象から外す(1059 名)

三世…回答が 37 件と少なすぎることから、今回は二世のデータ(1022 件)のみを分析の対象とした

・年齢層×二世本人・配偶者の別

年齢層	二世	二世配	総計
10代	1*		1
20代		1	1
30代	14	6	20
40代	200	51	250
50代	291	91	382
60代	181	94	275
70代	63	28	91
80代		1	1**
総計	750	272	1022

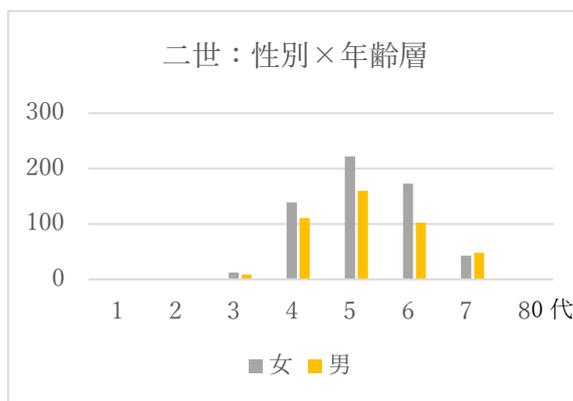


※戦後生まれの「婦人等」の二世 ※※「婦人」二世(女性)の男性配偶者

・二世の性別分布

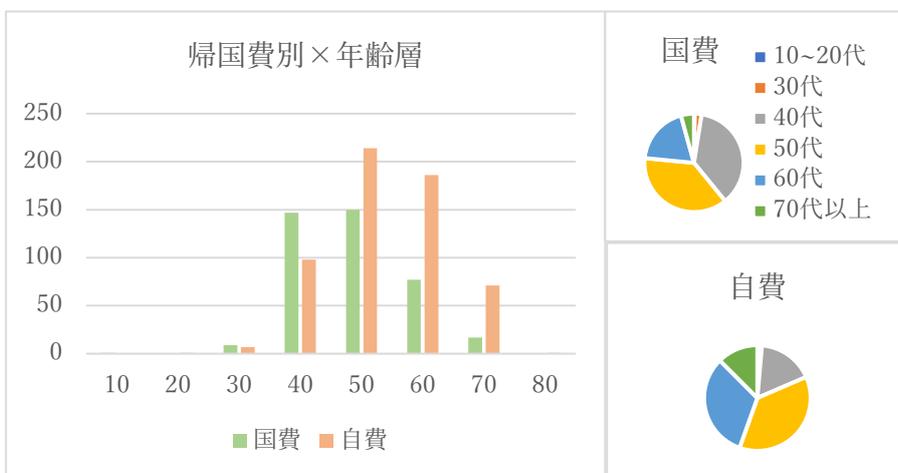
性/年齢層	10	20	30	40	50	60	70	80	総計
未回答				1					1
女(av56.0)	1	1	12	139	222	173	43		591
男(av56.2)			8	111	160	102	48	1	430
計(av56.1)	1	1	20	251	382	275	91	1	1022

女性がやや多い(男女比 42%:58%)ことによる回答の偏りがあり得る。 ※赤字は最頻値(以下同)



・国費自費別×年齢層

年齢層	国費	自費	総計
10代	1		1
20代		1	1
30代	9	7	16
40代	147	98	245
50代	150	214	364
60代	77	186	263
70代	17	71	88
80代		1	1
総計	401	578	9791
平均	53.2	58.2	56.1



国費は40-50代が突出して多く、自費は50-60代が多い。

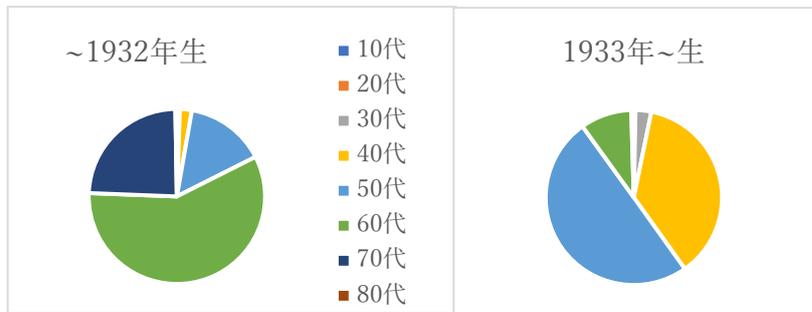
・婦人か孤児かについて：

終戦時おおよそ13歳以上か未満かという区分は婦人の帰国援護策が拡充されるまでのもので、現在では公式には区別がなくなっており、通称的な区分である。その後は、身元が終始わかっていた人は孤児相当年齢でも「婦人等」に分類されるようになり、正式には「残留孤児」=肉親捜しをした人である。「婦人等」である孤児相当年齢の二世のことを二世自身がどう認識して回答しているかわからないため、婦人か孤児かによる区分はあまり意味がなくなっている。

→そこで、仮に一世の生年(1932年以前生まれと1933年以降生まれで分ける)と年齢層で分けてみると…、下の表で孤児相当年齢の人の二世(B)が婦人相当年齢の人の二世(A)の倍近くいて人数での比較は平衡を欠くため、両者の年齢層別の分布を見るとAの最頻値は60代、Bの最頻値は50代となる。

・一世の孤児/婦人相当年齢別

年齢	～1932	1933～	不明	総計
10代		1		1
20代		1		1
30代	2	18		20
40代	8	243		251
50代	54	328		382
60代	212	62	1	275
70代	88	3		91
80代	1			1
総計	365	656	1	1022
平均	64.7	51.3		56.1

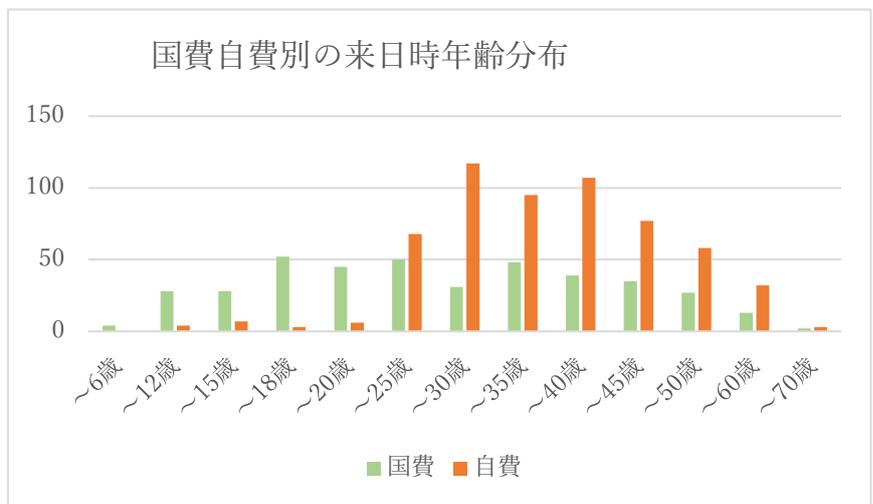


婦人相当年齢の二世は過半数が60代、次いで70代、孤児相当年齢の二世は最頻値が50代で半数近く、次いで多いのが40代と、年齢構成が異なってくる。

次に、援護施策上の大きな違いである国費自費別の来日時年齢層を見てみると…

・来日時年齢層

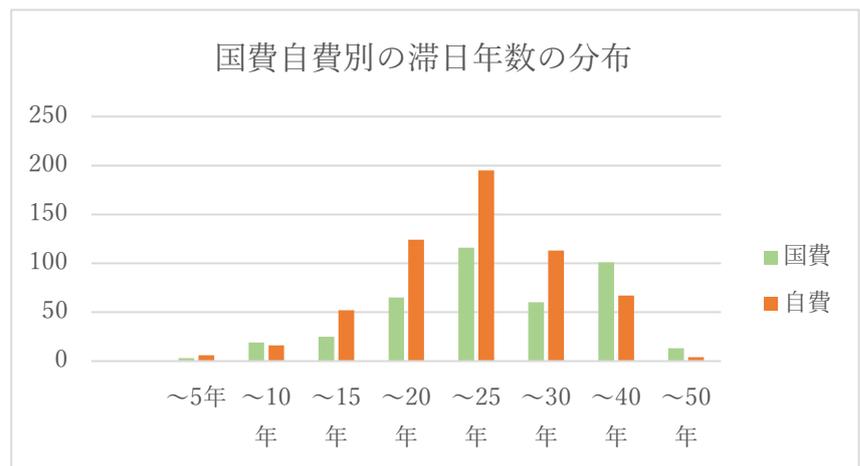
年齢↓ 費別→	国費	自費	総計
～6歳	4		4
～12歳	28	4	32
～15歳	28	7	35
～18歳	52	3	55
～20歳	45	6	51
～25歳	50	68	118
～30歳	31	117	148
～35歳	48	95	143
～40歳	39	107	146
～45歳	35	77	112
～50歳	27	58	85
～60歳	13	32	45
～70歳/以上	2	3	5
総計	402	577	979



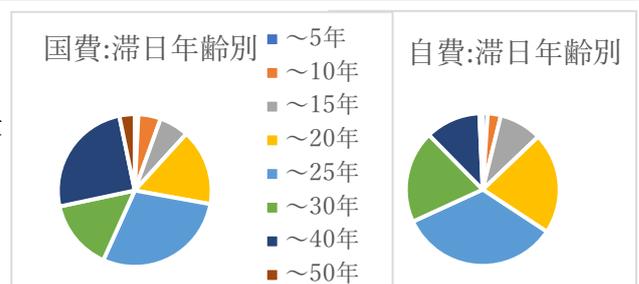
国費は16～25歳(原則未成年の同伴帰国)と31～35歳(三世を伴っての同伴帰国時代)に山、自費は26～40歳に山がある。

・滞日年数

滞日年	国費	自費	総計
～5年	3	6	12
～10年	19	16	35
～15年	25	52	77
～20年	65	124	189
～25年	116	195	311
～30年	60	113	173
～40年	101	67	168
～50年	13	4	17
総計	402	577	979



国費は21～25年、31～40年の2つの山。21-25年は成人した二世世帯を同伴できるようになってからの大量帰国時代、31-40年は原則未成年の二世が同伴されて帰国していた大量帰国時代の来日と符合する。自費は21～25年が最頻値で前後5年も多い。次頁の表で、滞日年数と来日時年齢の行列を示す。



・滞日年数×来日時年齢

年齢↓年数:迄	3	5	10	15	20	25	30	40	50	総計
6歳迄							1	2	1	4
12歳迄				1	1	3	4	18	7	34
15						3	8	22	2	35
18					2	4	18	29	4	57
20					2	11	20	16	3	52
25				4	17	30	32	37		120
30	1		1	6	41	57	25	19	1	151
35			1	19	44	53	19	12		148
40	1		11	19	27	49	27	15		149
45	1		5	7	23	56	23	1		116
50	2	1	9	9	17	47	4			89
60	2	1	6	12	20	5				46
70歳迄/以上	1		2	1	1					5
総計	8	2	35	78	195	317	181	171	18	1006

回答者中の一番厚い層は、滞日年数が21~25年で20代後半~40歳迄に来日したグループとなる。

※但し、今回の回答が二世全体の分布を反映しているとまで言い切れないことに注意

20代後半~40歳グループでは年齢層が広すぎるため、どの層を採るか把握するために費別に見たのが下の表。31-35歳で来日し、滞日16-25年のグループ(調査時点で46~60歳、黄色マーカー部分)に絞り、報告後半ではそのグループについて考察することとする。

・費別の分布

国費二世

年齢↓年数:迄	3	10	15	20	25	30	40	50	計
6歳迄						1	2	1	4
12歳迄			1	1	1	4	16	5	28
15歳迄					3	7	16	2	28
18歳迄				1	3	18	27	3	52
20歳迄				2	11	18	13	1	45
25歳迄			1	5	14	10	20		50
30歳迄			2	12	10	1	5	1	31
35歳迄		1	11	18	17		1		48
40歳迄		5	4	13	16		1		39
45歳迄		3	1	5	25	1			35
50歳迄	2	7		2	16				27
60歳迄	1	2	4	6					13
70歳迄/~		1	1						2
総計	3	19	25	65	116	60	101	13	402

自費二世

※今回の回答者中自費二世に幼少期来日の人はいない									
年迄→	5	10	15	20	25	30	40	50	計
12							2	2	4
15						1	6		7
18				1			2		3
20					1	1	2	2	6
25			3	12	15	22	17		69
30	1	1	4	30	46	22	13		117
35			8	26	35	17	10		96
40	1	6	14	13	33	26	14		107
45	1	2	6	16	30	21	1		77
50		2	9	12	31	4			58
60	2	4	8	13	5				32
70	1	1		1					3
計	6	16	52	124	196	114	67	4	579

3-3.日本語他の変数間の関連(費別件数少につき略:来日時15歳以下、61歳以上、滞日5年以下、41年以上)

3-3-1.日本語

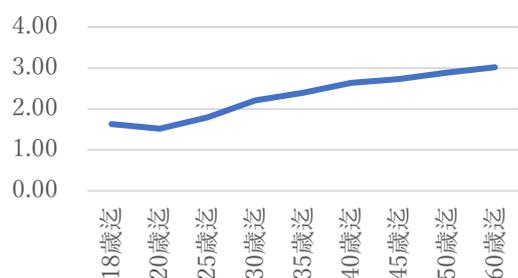
・来日時年齢×困難度平均 ※「困難度」=本人が日本語を難しいと感じている程度(1小~4大の段階尺度)

来日時年齢~歳迄→	18歳	20	25	30	35	40	45	50	60	計
日本語困難度平均	1.63	1.52	1.80	2.21	2.40	2.64	2.73	2.89	3.02	/
件数	57	50	118	149	147	146	113	89	45	982

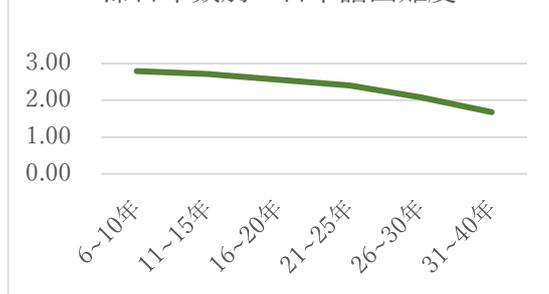
・滞日年数×日本語困難度

年数:~年迄	6-10年	15	20	25	30	40	計
日語評定	2.79	2.72	2.56	2.40	2.08	1.68	/
人数	35	78	195	317	181	171	977

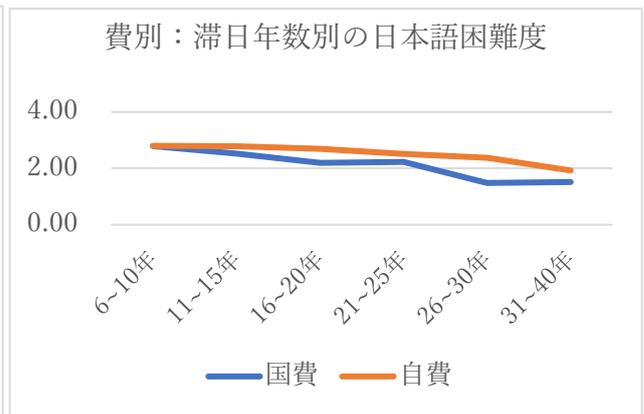
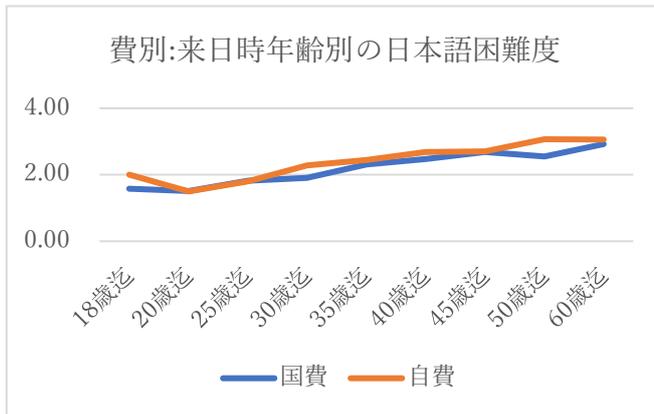
来日時年齢別の日本語困難度



滞日年数別の日本語困難度



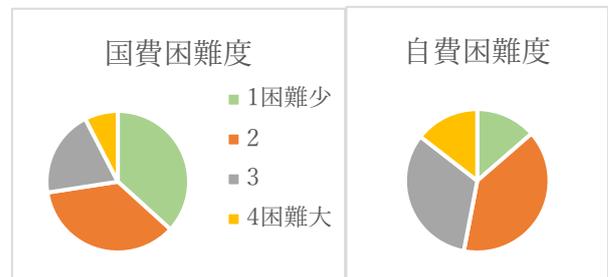
グラフで見ると、来日時年齢と困難度の関連は大きく見える。滞日年数と困難度との関連は来日時年齢とのそれほど大きくないようである。これを国費自費別に見ると、



年齢:26-40 歳層で自費の困難度 \geq 国費の困難度だが、16-18 歳層以外では差は小さい。
 年数:6-10 年以内では差がない。それ以降では全ての滞日年数グループで自費 $>$ 国費。

・自費国費別の日本語困難度

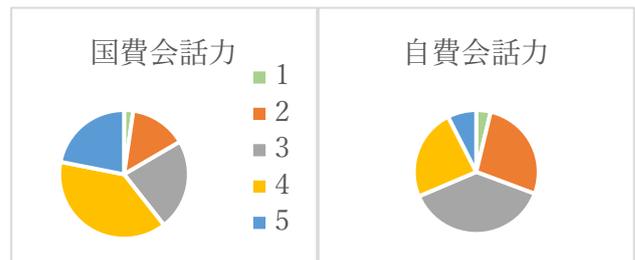
困難度	1 小	2	3	4 大	計	平均
他	5	9	5	9	28	
国費	146	142	79	30	397	2.03
自費	77	224	185	82	568	2.48
回答者計	228	375	269	121	993	



最頻値が国費は「1 困っていない~2 少し困っている」、自費は「2~3 困っている」と差がある。

・困難度より定義の操作性が高い会話力評定で見ると、
 ・費別×日本語会話力(5段階自己評定)

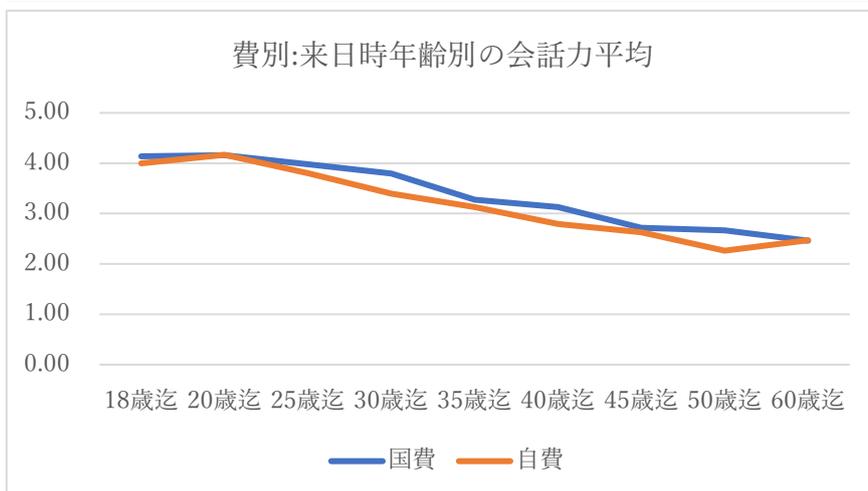
会話力	1 不可	2 片言	3	4 雑談	5 複雑可	評定平均
国費	9	56	90	152	86	3.64
自費	21	152	213	135	42	3.04
回答者計	30	208	303	287	128	3.28



最頻値が国費は「4 挨拶以上の会話も可」、自費は「3 道聞きや買い物程度」のサバイバル段階とやはり差がある。

・会話力を費別×来日時年齢別に見ると…

来日時年齢	16~18 歳	~20 歳	~25 歳	~30 歳	~35 歳	~40 歳	~45 歳	~50 歳	~60 歳	総計
国費	4.14	4.16	3.98	3.79	3.28	3.13	2.71	2.67	2.46	3.64
自費	4.00	4.17	3.80	3.39	3.13	2.79	2.63	2.26	2.47	3.04
総計	4.09	4.14	3.88	3.48	3.18	2.86	2.64	2.40	2.47	3.28

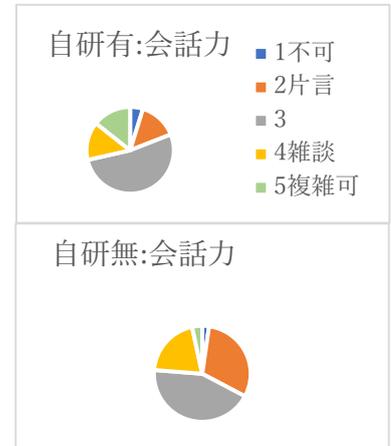


←来日時 19-20 歳の層以外では 50 歳までの全年齢層に亘って会話力の平均評定値は国費が自費を小差で上回っている。51-60 歳で来日した層になると費別の差がなくなっているのは、高齢での来日となると日本語学習支援を得られても効果が小さいということと考えられる。

・会話力と定促センター研修機会の有無との関連は…

会話力	1 不可	2	3	4	5 複雑話可	計
定促あり	6	52	84	117	59	318
定促なし	26	163	224	175	71	659

最頻値が定促有が4、定促無が3、また「2 挨拶程度」や「4 雑談可」の比率にも定促機会の有無間では差が出ている。但し、この結果にも来日時年齢と滞日年数要因の関与が絡むため、次頁の★グループの結果を参照。



年齢要因の大きく絡まない幅(31-40歳)の自費組で、自研有無の比較を

	1 不可	2 片言	3	4 雑談	5 複雑可	総計	平均
自研無	4	54	77	36	6	177	2.92
自研有	1	3	11	3	3	21	3.19
総計	5	57	88	39	9	198	2.95

自費で自立研修を受けることができた人が元々少ないので参考までだが、自研有組の会話力の方が高くなっている。

・読み書き力(1 不可～5 可の5段階尺度)

	1	2	3	4	5	総計	平均
国費	36	89	76	127	65	393	3.24
自費	85	217	126	112	26	567	2.61
回答者計	121	306	202	239	91	960	2.86

読み書きも国費 > 自費。最頻値が国費 4、自費 2。

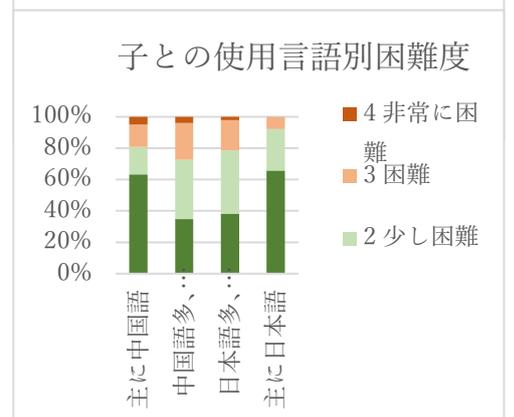
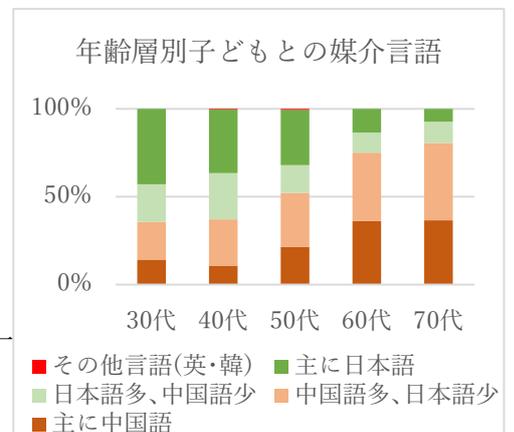


・子どもとのコミュニケーション

年齢層	主に中国語	中国語多 日本語少	日本語多 中国語少	主に日本語	その他 (英・韓)	その他	計
30代	2	3	3	6			14
40代	23	56	56	77	1		213
50代	74	105	54	108	2	1 半々	344
60代	83	89	26	31		1 通じず	230
70代	30	36	10	6			82
総計	212	289	149	228	3	2	883

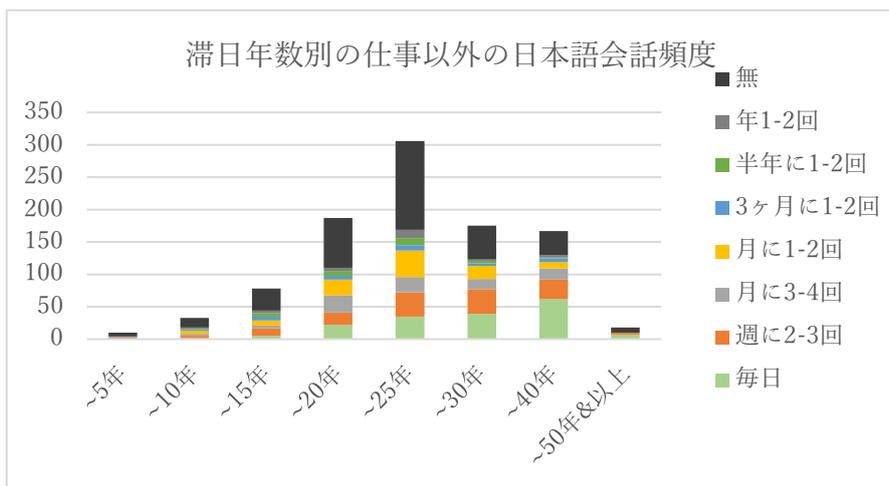
大勢を見たかったので選択肢に「半々」をあえて加えなかったが「その他」の人は「日中半々」。選択肢にあれば「半々」回答はもっと多かったと思われる。二世自身や配偶者の母語ない居住地の関係で日中以外の言語も少数使われている。若年層ほど日本語寄り、高齢層ほど中国語寄りになり、それに伴って困難度も変わるの当然の結果であるが、来日時年齢と滞日年数の影響を考慮しなければならないので、これについては今後もう少し詳察したい。

→困難度	1 困難なし	2 少し困難	3 困難	4 非常に困難	総計
主に中国語	126	35	28	10	199
中国語多、日本語少	98	106	66	11	281
日本語多、中国語少	57	60	29	3	149
主に日本語	150	60	18		228
総計	431	261	141	24	857



・仕事以外で日本語を話す機会

滞日年数	毎日	週に2-3回	月に3-4回	月に1-2回	3月に1-2回	半年に1-2回	年1-2回	無	計
~5年		2	2					6	10
~10年	1	4	3	5	2	1	2	15	33
~15年	5	12	4	8	6	5	4	34	78
~20年	22	19	27	24	6	7	5	77	187
~25年	35	37	24	41	8	11	13	137	306
~30年	39	38	16	20	4	4	2	52	175
~40年	62	30	17	10	6	1	4	37	167
~50年&+	7	3						8	18
総計	171	145	93	108	32	29	30	366	974



滞日年数 31-40 年以外の全グループで、仕事以外かつ挨拶以外で日本語で会話をする機会が全くないと回答した人が最も多かったことが気になる。本人の認識なので実際には使っていても意識していない場合があり得るが、本人が仕事以外では全く日本語を使わずに一日一日が終わってしまったと考えているとしたら…

来日時 31-35 歳かつ滞日 16~25 年の★グループ(95 名、調査時点で 46~60 歳)についての結果と考察

p4 で述べたように年齢要因を統制して費別の比較を行うため、このグループを取り上げる。 ※「★」付きの図表

・★費別×日本語各指標度

困難度	1 無	2	3	4 大	困難度 av 小 1→大 4	会話力 av 低 1~高 5	読書き av 低 1~高 5	計
国費	7	14	11	2	2.24	3.35	2.83	35
自費	3	28	22	7	2.55	3.09	2.53	60
組全体	10	42	33	9	2.44	3.19	2.64	95

国費の人の人数が少ないのでやや偏りが避けられないが、全ての自己評定項目において、平均値で自費帰国二世の困難度が高く、日本語力が低い。

・★困難度自己評定



いずれも平均値にすると差は小さいが、分布が大きく異なる。困難度では、両者とも「2 やや困難」が最頻値ではあるが、費別で差が大きいのが「1 困難無し」と「4 非常に困難」比率。会話力では、最頻値が国費は評定 4 が過半数を占めるのに対して、自費は評定 3。

・★会話力自己評定

会話力	1 不可	2 片言	3 会話ハル	4 雑談可	5 複雑可
国費	2	3	10	20	0
自費	2	15	23	15	4
総計	4	17	33	34	4



※自費の中に評定 5 の人が少数ながら 4 名いることが注目される(国費はゼロ)。この 4 名は 1 名が滞日 17 年で現在 40 代後半、残り 3 名は滞日 21-25 年で現在 50 代後半。

・★読み書き力自己評価

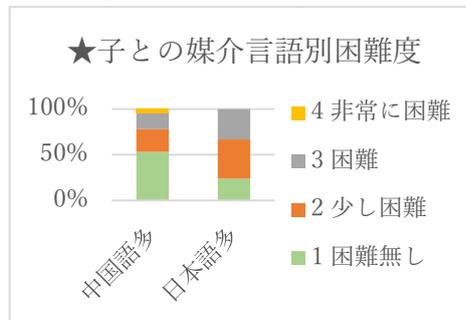
	1 不可	2 短文	3 手紙	4 新聞	5 複雑
国費	4	10	11	8	2
自費	9	22	17	12	0
総計	13	32	28	20	2



読み書き力は会話力とは異なり、国費でも高評価が少ない。初期の集中研修を受けられたとしてもそのみでの習得は困難であるということだろうか。それにしても、自費の「1 全く不可」と「2 短文のみ可」比率がやや高い。

・★子との言語コミュニケーション

困難度→	1 無	2 少し	3 困難	4 非常に	総計
中国語多	34	16	11	3	64
日本語多	5	9	7		21
総計	39	25	18	3	85

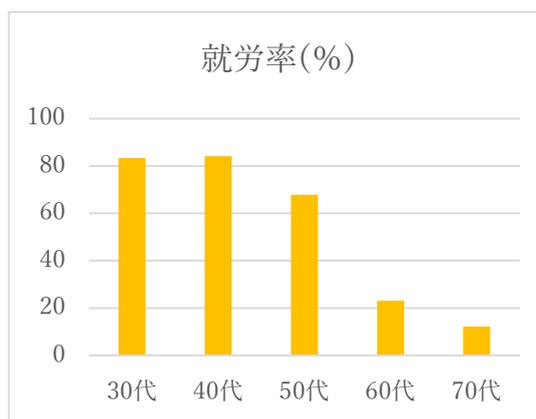


「主に中国語」かつ「対話が非常に困難」の家庭は子の中国語力が低く、しかし親も日本語力が低くて媒介語にできない場合と考えられる。どの子も日本語が優勢となっていて、多くの二世が日本語でのやりとりにならざるに少なからず困難を覚えているかもしれない。

3-3-2.就労・経済状況

・就労状況 年齢層別

年齢層	就労中	不就労	その他	総計	就労率
10代	1			1	
20代	1			1	
30代	15	2	1	18	83.3
40代	206	36	3	245	84.1
50代	257	108	14	379	67.8
60代	62	196	11	269	23.1
70代	11	73	7	91	12.1
80代		1		1	
総計	553	416	36	1005	



就労年齢の50代の就労率が低い。また70代でも就労している人がいるのは、老後の生活の保障の低さの表れか。

・年齢層別の経済的自立状況

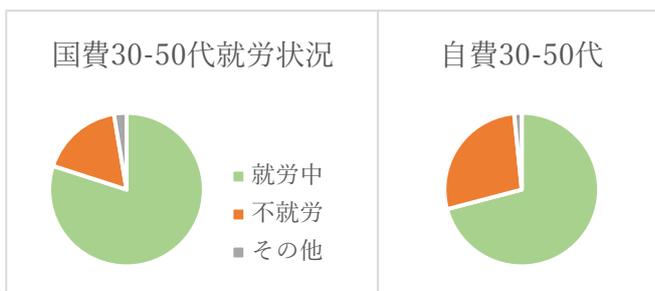
状況	自ら(含む配偶者)給料で自立	公的援護受給	親子戚等の援助	年金(含む家族分)	年金と給料・生保・貯金	障害年金	貯金取り崩し	給料と生保	総計
30	17								17
40	207	14	5			2	1	1	230
50	272	60	13	1		2	1		349
60	88	134	2	12	3	1	2		242
70	10	59	3	3	4				79
80		1							1
総計	594	268	23	16	7	5	4	1	918

60歳以上は当然としても、50代も生活保護や失業保険等の公的な援護で生活している人が少なくない。60代以上でも年金だけで自活できている人もかなり少なく、年金と生活保護やパートの給料、貯金取り崩しの人がいる。

・30-50 代の費別就労状況

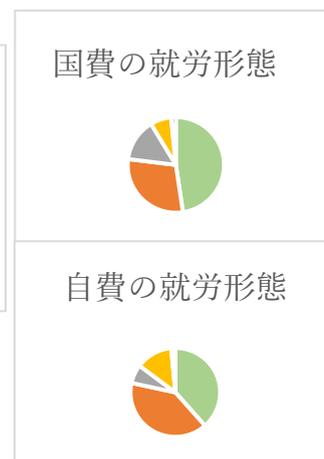
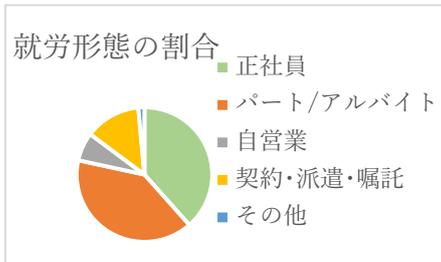
	就労中	不就労	その他	総計
国費	244	53	8	305
自費	224	87	5	316

就労年齢と考えられる 30-50 代に限って費別の状況を見てみると、国費の方が若干就労率が高い。不就労の人は費別を問わず、生活保護に頼ってというと考えられる。



・費別就労形態

形態↓	→費別	国費	自費	総計
正社員		122	107	229
パート/アルバイト		75	111	186
自営業		37	19	56
契約・派遣・嘱託		18	37	55
その他		4	4	8
総計		256	278	534



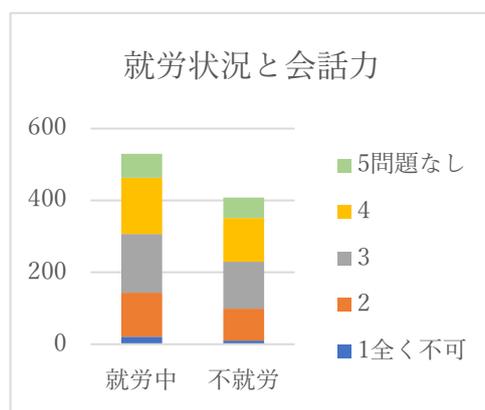
費別による就労形態の違い⇨経済的安定度の違いが見られる。
国費は 5 割近くが正社員だが自費は正社員と臨時が 4 割近くで拮抗。

・就労状況と会話力自己評定(1 低い～5高い)

会話力	1	2	3	4	5	回答計	平均
就労中	21	122	164	156	67	530	3.24
不就労	10	89	131	121	57	408	3.31
その他	1	4	13	12	4	34	3.41
総計	32	214	308	288	127	972	3.28

会話力自己評定と就労状況にはあまり関連が見られない、つまり日本語ができようができまいが家計を支えるために就労することはできている。

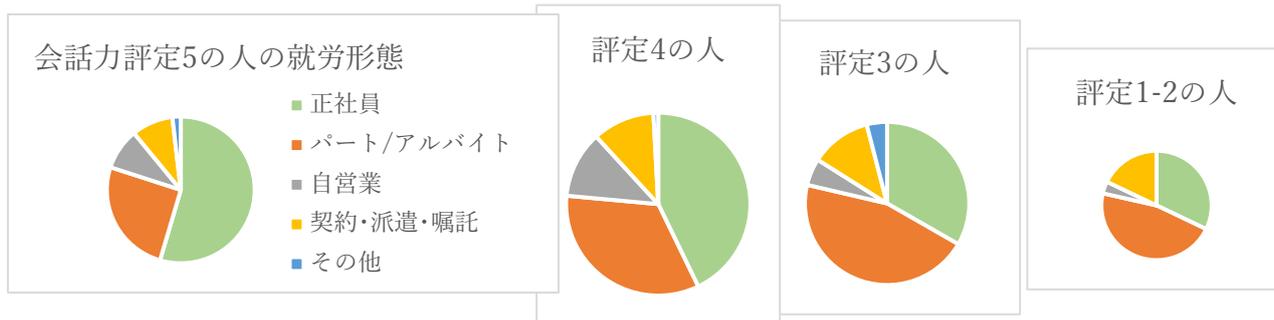
では次に、会話力別に就業形態の分布を見てみると…



・現在就労中の人の会話力自己評定×就業形態の分布

会話力	正社員	パート	自営業	契約派遣嘱託	その他	総計
1~2	18	30	2	8	0	58
3	51	67	12	18	4	152
4	101	65	27	21	3	217
5	56	28	14	9	3	110
総計	234	191	58	56	11	550

左の表は件数表示。評定ごとの人数が異なっていて比較しにくいいため、比率で表したのが以下の円グラフ(円の大きさを件数比を示す)。会話力と正社員やパートの比率は関連が見られる。



・30-60 代の不就業の理由

	家事等	失業中	心身障碍	定年高齢	病気	他	総計
30代	1	1		/			2
40代	18	4	9	/	4		35
50代	31	15	27	/	40	1	114
60代	30	6	32	55	75	2	199
総計	80	26	68	54	119		350

不就業の理由(定年/高齢を除く)



病気療養が多く、心身の障碍も多い。「その他」は日本語(1)を含む。60代と共に50代の疾病・障碍の多さが気になる。

・経済状況 生活余裕度1(低い)~4(高い)

生活余裕度	1	2	3	4	総計	平均
国費	58	145	183	12	398	2.37
自費	104	263	201	4	572	2.18
その他	3	12	17		32	
総計	165	420	401	16	1002	

平均値の差は小さいが、最頻値が国費:3 少し余裕がある、自費:2 あまり余裕がない と差が出た。

国費



自費



3-3-3. 学習機会

来日時 14 歳以下及び最も遅い自立研修センター開設日 1995 年 10 月 1 日より前の来日者を除いた 690 人について自費帰国者が公式学習機会をどのくらい得られているか見てみると...

自研に	行かず	行った	不明	
国費	225	63	2	290
自費	356	39	5	400
合計	581	102	7	690

国費でも自研に通えていない人が多い。自研設置都市に定着したのでない人が多いことが考えられる。但し、そういう人ほど回答を

寄せたおそれがある。それでも全体としては自費の人よりは多く通えている。

※自費帰国者は「余席の範囲」で複数の自研が受け入れていた。

国費



自費



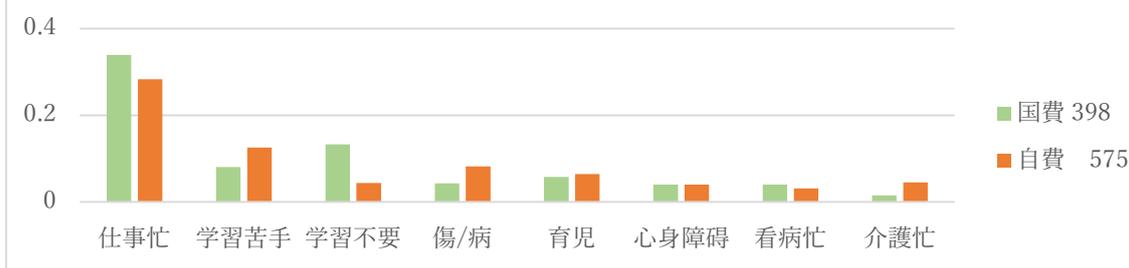
・現在日本語を学習しない理由(複数回答) 全体回答数の多い順

※「学習苦手」は「年齢的に覚えられない」を含む→自費帰国者の方がより高齢であるため、この理由が増える

	仕事多忙	学習苦手*	学習不要	傷病	育児	心身障碍	看病	介護
全体	298	104	78	64	60	39	34	32
N=973	30.6%	10.7%	8.0%	6.6%	6.2%	4.0%	3.5%	3.3%
国費	135	32	53	17	23	16	16	6
N=398	①33.9%	③8.0%	②13.3%	⑤4.3%	④5.8%	4.0%	4.0%	1.5%
自費	163	72	25	47	37	23	18	26
N=575	①28.3%	②12.5%	⑥4.3%	③8.2%	④6.4%	4.0%	3.1%	4.5%

大きく異なるのが「学習の必要を感じない」。国費は第2位、自費は第6位で、裏返せば自費帰国者に日本語学習の必要を感じ続けている人が多いことが示された。どちらも心身障碍が一定数あり。

日本語を学習しない理由の割合(複数回答) 費別



以上に見てきたように、自費と国費で日本語の習得や学習機会に関しては格差が大きく、日本語のハンデが就労状況の不安定さに影響していると考えられる結果となった。

・学習の必要な場面(複数回答) 年齢層別ニーズ順位 ※各グループ上位4項目を色分けしてみた(同項同色)

30-40代 271名 %			50代 382名 %			60代 275名 %			70代~ 91名 %		
仕事上	125	46.1	仕事上	148	38.7	役所や病院で	99	36.0	役所や病院で	33	36.3
役所や病院で	76	28.0	役所や病院で	111	29.1	隣人知人と	99	36.0	隣人知人と	30	33.0
同僚と深い話	67	24.7	同僚と深い話	90	23.6	買い物交通	87	31.6	買い物交通	25	27.5
子や子の先生と	58	21.4	隣人知人と	80	20.9	介護を受ける	61	22.2	介護を受ける	22	24.2
隣人知人と	54	19.9	買い物交通	66	17.3	家族・親戚と	38	13.8	孫や孫の先生と	15	16.5
介護を受ける	33	12.2	子や子の先生と	50	13.1	孫や孫の先生と	38	13.8	家族・親戚と	14	15.4
買い物交通	32	11.8	介護を受ける	44	11.5	仕事上	35	12.7	同僚と深い話	11	12.1
家族・親戚と	14	5.2	家族・親戚と	37	9.7	同僚と深い話	32	11.6	子や子の先生と	7	7.7
孫や孫の先生と	4	1.5	孫や孫の先生と	22	5.8	子や子の先生と	19	6.9	仕事上	4	4.4

30-50代と60-70代でニーズ順位ははっきり分かれるが「役所・病院」は常に上位。50代迄の「介護」場面は主として親の介護と考えられるが、60代~は親と自身や配偶者の両方の可能性あり。「隣人知人」ニーズが歳と共に上がるが、集合住宅での挨拶程度しか接点がなく、かつそれしか日本人との接点がないことが背景にあるかもしれない。

・年齢層×希望する学習形態 全体で希望の多い順

	30代迄	40代	50代	60代	70代	総計
週1	2	45	66	65	28	206
自学	3	47	72	52	12	186
通信教育	2	36	55	31	19	143
ネット学習	5	48	57	15	7	132
月2	1	16	24	27	5	73
毎日	1	11	26	21	8	67
総計	14	203	300	211	79	807

年齢層によって希望する形態が異なる。就労や子育てで多忙な50代迄では自学や通信・ネット学習の希望、60~70代は週に一回の教室通学の希望が高いが、教室ニーズは4-50代にも高い。

・年齢層×学習の目的 全体で多い順

	30代迄	40代	50代	60代	70代	総計
キャリアアップ	10	119	113	14	1	257
情報入手	4	52	89	65	17	227
ぼけ防止	1	11	69	100	43	224
アイデンティティ	1	48	65	45	11	170
国籍/帰化	1	7	18	7	7	40

当然のことではあるが、就労している年齢層(キャリアアップ)と高齢者(ぼけ防止)とでニーズは分かれた。情報入手は年齢層を問わずニーズが高い。次節でどのような情報が求められているかを見る。

4. QOL 関連

4-1. 必要な情報

	30代迄	40代	50代	60代	70代	総計
年金/老後	4	85	153	102	29	373
健康医療	3	56	123	120	34	336
法律	4	57	66	34	5	166
介護	3	19	38	53	22	135
求人就労	6	37	48	5	2	98
ニュース	2	14	30	31	11	88
余暇	3	15	32	19	1	70
育児/教育	3	32	22	4		61
防災	1	10	15	27	4	57

30代までを除いて、全年齢層で老後の生活に関わる情報ニーズが高い。同様に、健康や医療に関わる情報も求められている。

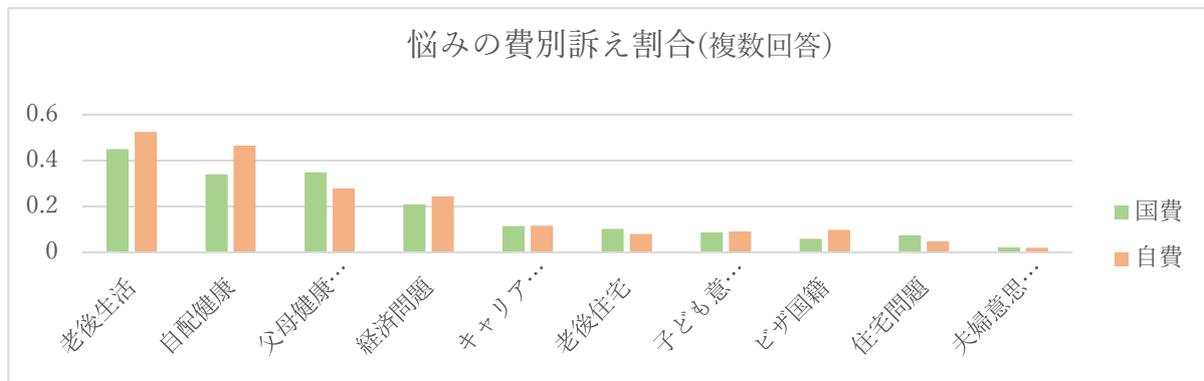
4-2. 日本語以外の悩み

	多い順(複数選択)	全体	%(/980)	国費	%(/402)	自費	%(/578)
1	老後の生活	485	49.5%	181	①45.0%	304	①52.6%
2	自分と配偶者の健康	406	41.4%	137	③34.1%	269	②46.5%
3	父母の健康/介護	301	30.7%	140	②34.8%	161	③27.9%
4	経済問題	225	23.0%	84	④20.9%	141	④24.4%
5	キャリアアップ	113	11.5%	46	⑤11.4%	67	⑤11.6%

費別を問わず、老後の生活への悩みが多い。費別で順位が異なった項目は、ビザ/国籍→自費6位、国費9位(法的地位の不安定さの反

6	老後の住宅	87	8.9%	41	⑥10.2%	46	⑧8.0%
7	子どもとの意思疎通	88	9.0%	35	⑦8.7%	53	⑦9.2%
8	ビザ/国籍	81	8.3%	24	⑨6.0%	57	⑥9.9%
9	(現在の)住宅問題	58	5.9%	30	⑧7.5%	28	4.8%
10	夫婦間の意思疎通	21	2.1%	9	2.2%	12	2.1%

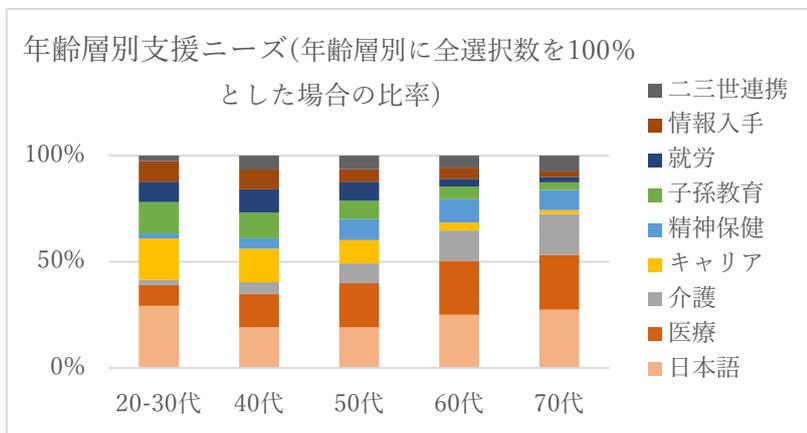
映か)、自分と配偶者の健康→自費:大差で2位、国費:3位 は自費の方が平均年齢が高いためかと(父母の健康の順位も同理由)



・年齢層別の支援ニーズ順位(複数回答)

ニーズ	日本語	医療	介護	キャリア	精神保健	子孫教育	就労	情報入手	二三世連携
20-30代	12	4	1	8	1	6	4	4	1
40代	99	80	29	81	26	62	56	48	34
50代	147	158	72	84	76	65	69	45	49
60代	129	131	73	20	56	31	19	27	29
70代	44	41	31	3	15	6	4	4	12
総計	431	414	206	196	175	170	152	128	125

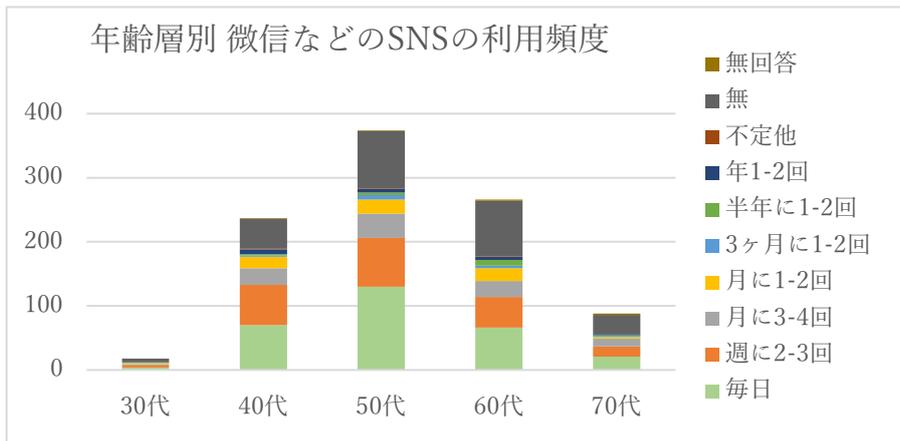
上の「悩み」であえて日本語以外としたのは日本語ニーズが高いと予想したが、



なっても日本語学習の支援ニーズが高かった(70代でも最多ニーズ)。年齢と共に医療や介護への支援ニーズが高まり、キャリアアップや就労が低下するのは当然だが70代になってもこれらのニーズが少ないながらもある。老後の生活保障がないことから、働き続けなければというプレッシャーを感じている人がいるということではないか。

4-3. 微信(中国版 LINE)などの SNS の利用頻度

頻度	毎日	週に2-3回	月に3-4回	月に1-2回	3ヶ月1-2回	半年1-2回	年1-2回	不定他	利用無	無回答	総計
10代									1		1
20代		1									1
30代	4	3	2	2	1				6		18
40代	70	63	26	18	2	2	7	1	47	1	237
50代	130	76	38	22	7	4	6	1	89	1	374
60代	66	48	25	20	4	9	5	1	86	2	266
70代	21	16	12	2	1	2	2		30	2	88
80代									1		1
総計	292	207	103	64	15	17	20	3	258	6	987



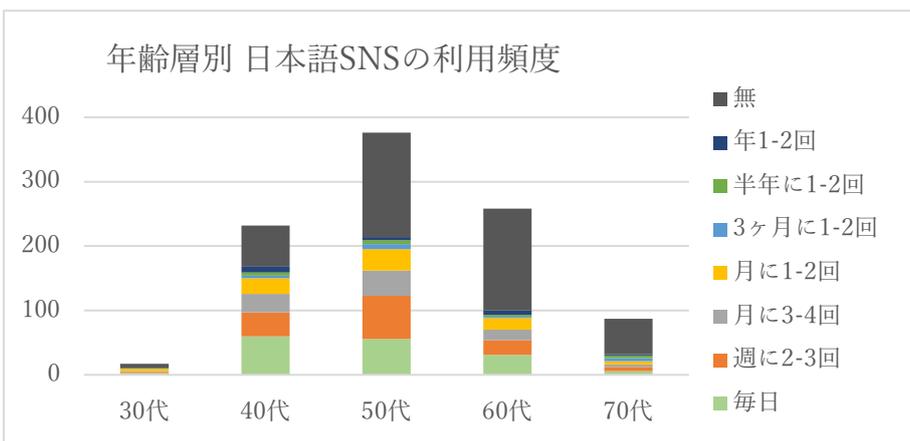
高齢者も意外と SNS を利用している。70代でも毎日～週に2-3回利用している人が相当数いる。対象は在中/日の親族友人が主で、微信が多いと思われるが、微信を利用した学習支援や生活相談を展開していけるのではないかな。

・年齢層 × 中文 SNS やりとりの相手

	在中家族	在中親戚	在中友人	在日親戚	在日友人	支援職員講師	別住家族	仕事	人数
10-20代					1				2
30代	7	3	4	1	3		3		20
40代	66	70	76	47	66	4	49	2	250
50代	95	131	111	93	101	9	75	6	382
60代	64	77	63	62	69	9	46	1	275
70代~	21	28	25	19	19	4	20		92
総計	253	309	279	222	259	26	191	9	1022

・日本語での SNS 利用頻度

	毎日	週に2-3回	月に3-4回	月に1-2回	3ヶ月に1-2回	半年に1-2回	年1-2回	無	計
10~20代	1				1				2
30代	3	2	1	3			1	7	17
40代	60	37	29	24	4	5	10	63	232
50代	56	67	39	33	8	6	5	162	376
60代	31	23	16	18	2	3	7	158	258
70代	6	6	4	5	5	4	2	55	87
80代								1	1
総計	157	135	89	83	20	19	24	446	973



日本語での利用頻度は当然下がるが、意外と使われている。60代でも6-70名が月に3-4回以上利用している。年齢を問わず対象の最多は在日の友人だった。やりとりの質と量を探ってみたい。

・年齢層 × 日本語の SNS やりとりの相手(複数回答)

相手	在日友人	在日親戚	支援職員講師 (含介護員)	役場病院 買物	子孫学校	近所	子孫同学親	回答総数
10-20代	2							2
30代	9	1			1			20
40代	96	38	5	7	11	3	7	250
50代	113	52	2	3	3	8	4	382
60代	43	36	5	6	2	2		275
70代~	13	13	7	1		1		92
総計	276	140	19	17	17	14	11	1022

4-4. 残留邦人の生まれた歴史背景について(4段階尺度)

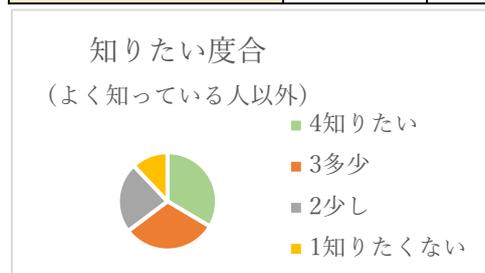
	4 よく知っている	3 ある程度知っている	2 少しだけ知っている	1 殆ど知らない	総計	評価平均
国費	140	159	72	20	391	3.07
自費	148	237	148	32	565	2.89
全体	288	396	220	52	956	2.96



費別では、国費の方が「よく知っている」がやや多い。「ある程度知っている」比率はほぼ同じ。国費二世は定促センター等の支援機関との接触の中で背景事情について知る機会が自費二世よりは多いためか。

「よく知っている」以外の人の「知りたい」度合い(4段階尺度)

既知度↓知りたい度→	4 知りたい	3 多少は	2 少しは	1 知りたくない	総計	評価平均
ある程度知っている	69	50	23	12	154	3.14
少しだけ知っている	53	68	52	25	198	2.75
殆ど知らない	12	6	18	11	47	2.40
総計	134	124	93	48	399	2.86



この質問項目は回答率が低く、回答総数が399件である。そして、当然の結果かもしれないが、より知らない人ほど関心が低いことが示された。日々の生活で忙しい二世に、自身の来日の根拠である両親(義父母を含む)の来歴に関心を持ってもらうためにはかなりの工夫が必要だろう。

4-5. 自由記述文の内訳

「特に意見なし」という記述や謝辞も含めて65件の自由記述回答が寄せられた。以下にその内訳を示すが(複数選択)、やはり老後と現在の生活保障を訴えるものが圧倒的に多かった。実際の文面は末尾の資料2参照。

支援全般	日本語学習	老後の生活	自分と家族の健康/医療	父母の健康/介護	経済問題	キャリア向上	子の教育	住宅問題	交流機会等 qol	三世への支援	普及啓発	尊厳的なこと
8	6	29	6	4	17	4	2	1	4	1	1	2

5. まとめ

以上に見てきたように、費別を問わず、老後の生活への支援ニーズが高いが、より高齢率の高い自費の人により支援ニーズが高い。婦人の二世の中には孤児年齢の人もあり、同じように高齢であるのに一世と同等の支援が得られないことへの不満が表出されている。また、日本語習得に関しては、来日時年齢の効果の大きさが表れた結果となった。かつ、青年期を過ぎて来日した二世は来日時年齢が高いほど、来日後何十年を過ぎてもなお日本語の困難さが表れてきている。公的な学習支援が得られなかった場合は尚更であった。

その上で更に自費で来日した二世について、日本語習得はもちろんのこと、物心両面にわたる困難な状況が露わである。何らかの支援策が講じられないのか。

中国帰国二・三世(2.3代)2019年調査票

スマホやpc上でもご回答可能です(也可以通过智能手机和电脑寄回答)→



あなたと 残留邦人 本人の 基本情報	01 よろしければお名前を (如果可以的话,请写一下您的姓名)		日本名()中国名()		02 性別	男・女
	03 現在のご住所 (〒)					
	04-05 生年月日と満年齢(周岁年齢)		西暦()年()月()日生まれ 満()歳			
	06 貴方(您的)出生地:1つに○を(选择一项,把它划圈儿)		・日本 ・中国 ・其他()			
	07-10 本人のお名前、生年月日(生年月日不明の場合は年齢) (遗华日本人的姓名和生年月日)		お名前:()西暦()年()月()日生れ 今日で()歳 已逝去の場合、西暦()年に()歳で			
	11 一世本人(与遗华日本人)と貴方との関係:请选择一项,划圈儿		・二世 ・二世配偶者 ・三世 ・三世配偶者 ・其他()			
	1213 貴方(您的)永住帰国(来日)年月日		西暦()年()月()日、今日時点で滞日()年			
	14 永住帰国(来日)時満(周岁)年齢 ()歳		15 国費・自費帰国の別 国費・自費・其他()			
	16 現在同居の家族人数		・独居 ・自己を含め合計()人		17 全同居者に○を	
			・夫か妻 ・子(儿子・女儿) ・父 ・舅(公公・岳父) ・孫(孫子女・外孫子女) ・母 ・姑(婆婆・岳母) ・(外)祖父母 ・兄弟姉妹 ・其他()			
18 貴方の現在の国籍:1つに○を(选择一项,把它划圈儿)		・日本 ・中国 ・其他()				

◆ 経歴等について

職歴等	19 永住帰国以降、今までに続けて2年間以上中国に帰国していた期間があれば、時期を記して下さい。また、日本と中国以外の国に2年間以上住んでいた期間があれば、国名も記して下さい。 定居归国后今为止,在中国如果有持续2年以上居住期间的話,请填写居住的时期。在日本和中国以外的国家有2年以上居住期间的話,请填写其国名。		年 月から	年 月	国	
			年 月から	年 月	国	
			年 月から	年 月	国	
			年 月から	年 月	国	
	20 永住帰国直前の在中国の経歴		職()を()年間 ・学生 ・未就学 ・未出生			
	21 在日本就労歴		正社員 計()年 パート・アルバイト(临时工)・派遣 計()年 自営業 計()年			
	22 今就労していますか?(現在有工作吗?)		・就労中(正在工作) ・不就労(没有工作) ・其他()			
	23 不就労(没有工作)の方へ:理由に○を(可以多选)		・失業中(就職活動中/職業訓練中) 家事等(専業主婦/育児/介護(护理家人)) ・身体/精神障碍 ・定年退職(退休) ・病氣療養等 ・其他(具体的)			
24 就労中の方へ:就業形態は?1つに○を(选择一项,划圈儿)		・正社員 ・契約社員 ・嘱託社員 ・自営業(个体经营) ・パート/アルバイト(临时工) ・派遣労働者 ・其他(具体的に:)				
25-26 就労中の方へ:今の仕事の具体的な内容と年数をお書き下さい。对现在有工作的人:具体的工作内容和就业年数		()を()年間				
経済状況	27 経済的な生活状況はどうですか。下の4段階から1つお選び下さい(从下面的选项中选择一项,划圈儿)					
	4 かなり余裕がある 3 少し余裕がある 2 あまり余裕がない 1 全く余裕がない 相当好 还可以 不太好 非常不好					
28 経済的支援を受けていますか?		・自分達の給料だけで自立(只靠工资生活) ・生活保護や失業保険等の公的援護受給中 ・親や親戚等の援助を受けている(接受父母或亲属的援助) ・其他(具体的に)				

資料1

学歴	29 在中国最終学歴 該当項目に○と数字を ご記入下さい	小学(卒・()年級中退) 初中(卒・()年級中退) 高中/中專/職/技校(卒・()年級中退) ()年制大学・大專(卒・()年級中退) 大学院(卒・()年級中退)
	30 在日本最終学歴 該当項目に○と数字を ご記入下さい	小学(卒・()年級中退) 中学(卒・()年級中退) 職業訓練校()年 高校・高專(卒・()年級中退) 専門学校・短大(卒・()年級中退) 四年制大学(卒・()年級中退) 大学院(卒・()年級中退)

◆ 日本語力・学習・情報入手等について

日本語力	31 日本語について、今どのくらい困っていますか(現在您感到日语困难的程度如何?)。1つに○(选择一项)	4 非常に困っている (非常难)	3 困っている (难)	2 少し困っている (有些难)	1 困っていない (没有什么困难)
	32 ご自身の日本語会話力に1つ○ 对您自己的日语能力评价, 请选择一项	5 能够自由地表述自己的意见并参与比较复杂的内容的讨论 複雑な内容の議論に参加したり自分の意見を自在に述べたりできる 4 能够围绕身边或自身感兴趣的话题, 进行杂谈・畅谈(能够顺利地进行与地方政府、大夫、同事、朋友等, 超过寒暄话阶段的对话) 身近な話題で雑談や歓談ができ、役所や医師、同僚友人等と挨拶以上の会話に不自由しない 3 能够进行问路、在银行车站商店的会话 道聞きや銀行、駅員や店員との会話に不自由しない 2 能说只言片语的寒暄话和自己家人姓名年龄等 片言の挨拶と自分や家族の名前や年齢程度 1 完全不会 全くできない			
仕事	33 日本語の読み書きは? 1つ○を 关于日文读写能力选择一项	5 能写比较复杂内容的文章 複雑な内容の文章も書ける		4 能看报纸但不能写复杂内容的文章 新聞は読めるが複雑な文章は書けない	
	34 就労中の方:職場での貴方の言語は? 1つに○を (选择一项在工作单位里您用的语言)	・主に日本語(以日语为主) ・中国語多、日本語少の混合		・日本語多、中国語少の混合 ・主に中国語 ・其の他()	
子供と話す	35 日本に子供のいる方:子供との対話は? 1つに○を (在日本与孩子对话时使用的语言)	・主に日本語(以日语为主) ・中国語多、日本語少の混合		・日本語多、中国語少の混合 ・主に中国語 ・其の他()	
	36 子供との対話に言語上の困難は?(与孩子对话时感到困难吗?)	4 非常に困難	3 困難	2 少し困難	1 困難は無い(没有困难)
一世世代と	37 帰国一世との対話は? 1つに○(与 遺華日本人第一代对话时用的语言)	・主に日本語(以日语为主) ・中国語多、日本語少の混合		・日本語多、中国語少の混合 ・主に中国語 ・其の他()	
	38 帰国一世との対話に言語上の困難は? (与遺華日本人第一代对话时感到困难吗?)	4 非常に困難	3 困難	2 少し困難	1 困難は無い
孫と話す	39 日本に孫のいる方:孫との対話は? 1つに○を (在日本与(外)孙子(女)对话时用的语言)	・主に日本語(以日语为主) ・中国語多、日本語少の混合		・日本語多、中国語少の混合 ・主に中国語 ・其の他()	
	40 孫との対話に言語上の困難は? (与(外)孙子(女)对话时感到困难吗?)	4 非常に困難	3 困難	2 少し困難	1 困難は無い
日本語学習経験	41 日本語学習歴(经历) (各機関の学習期間を年月数の合計でお答え下さい)	・来日前に()年()ヶ月(学校で・独学) ・日本の小中高校計()年()ヶ月 ・定着促進中心 ()ヶ月 ・自立研修中心 ()ヶ月 ・支援交流中心 計()年()ヶ月 ・其它的归国者教室 計()年()ヶ月 ・义工(ボランティア)教室 計()年()ヶ月 ・夜間中学 計()年()ヶ月 ・有料(收费)日语学校 計()年()ヶ月 ・其它()			

資料1

	42 最近1年間の日本語学習状況は？(可以多选)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア(义工)教室に在籍中 ・ 夜間中学に在籍中 ・ 支援交流中心の日本語 ・ 交流活動 ・ 遠隔課程に在籍中 ・ 支援交流中心以外の中国帰国者教室に在籍中 ・ 有料(收费)日本語学校に在籍中 ・ その他(_____)
日本語学習の希望	43 今日日本語学習をされていない方:理由はいくつでも○を(現在不学習の話,其理由(可以多选))	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習不必要 ・ 多忙(育児・介護(护理)・看病(看护)・仕事(工作)) ・ 心身障碍 ・ 負傷や病気 ・ 学習が苦手 ・ その他(具体的に_____) (受伤或得病) (不擅长学习)
	44 今、日本語学習の必要を感じる場面があれば、最多5つまで選んで下さい(如果在右边项目中有您想学习日语的场面,最多可选5项)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工作上 ・ 与同事进行超过打招呼水平的聊天 ・ 与家人和亲属的对话 ・ 与孩子或与孩子学校老师等的对话 ・ 与(外)孙子(女)或与孩子学校老师等的对话 ・ 自己或家人接受护理的场面 ・ 买东西和利用交通工具等日常生活 ・ 在地方政府和医院、银行等机关 ・ 与邻居和朋友熟人的对话 ・ 其它(具体的_____)
	45 除了上述场面以外您有什么样的学习目的呢?最多选择两项	<ul style="list-style-type: none"> ・ 职业上的发展(キャリアアップ) ・ 入籍/归化 ・ 获得信息 ・ 自我认同感(アイデンティティ) ・ 预防痴呆 ・ その他(_____)
	46 喜欢的学习方式如何?可选两项	<ul style="list-style-type: none"> ・ 每天开的教室 ・ 一周开一次的教室 ・ 一个月开两次的教室 ・ 通过寄信的函授教育 ・ (上网)在线学习 ・ 自学 ・ その他(具体的に_____)

◆ Q O L 関連

情報	47 难以得到信息的领域在哪方面?可以多选 情報入手に困る分野は?	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人・就労(招工・找工作) ・ 健康・医療 ・ 介護(护理) ・ 法律 ・ 防災 ・ 育児や子の教育 ・ 年金や老後(养老金・晩年) ・ 余暇(业余时间) ・ ニュース(新闻) ・ その他(具体的に:_____)
中国語力	48 あなた自身の中国語力に1つ○对您自己的汉语会话力量评价,请选择一项	<ul style="list-style-type: none"> 5・ 複雑な内容の議論に参加したり自分の意見を自在に述べたりできる (能够自由地表述自己的意见并参与比较复杂的内容的讨论) 4・ 身近な話題で雑談や歓談ができ、役所や医師等との挨拶以上の会話に不自由しない 能够围绕身边或自身感兴趣的话题,进行杂谈・畅谈(能够顺利地 进行与地方政府、大夫、同事等,超过寒暄话阶段的对话) 3・ 道聞きや銀行、駅員や店員との会話に不自由しない(能够进行问路、在银行车站商店的会话) 2・ 片言の挨拶と自分や家族の名前や年齢程度(能说只言片语的寒暄话和自家人姓名年龄等) 1・ 全くできない (完全不会)
	49 中国語の読み書きは?1つ○を关于中文读写能力	<ul style="list-style-type: none"> 5 複雑な内容の文章も書ける (能写比较复杂内容的文章) 4 新聞は読めるが複雑な文章は書けない (能看报纸但不能写复杂内容的文章) 3 簡単な手紙やメールなら読み書き可 (能读写简单的信或电子邮件) 2 簡単な短文を読むのは可 (只能读简单的短文) 1 不可 (完全不会)
中国語環境	50 日本で同居の家族以外と中国語で微信等でメール交換の機会はあるか?在日本,有与同居家属以外的人通过微信等互相打中文短信的机会吗?	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日 ・ 週に2-3回 ・ 月に3-4回 ・ 月に1-2回 ・ 3ヶ月に1-2回 ・ 半年に1-2回 ・ 年1-2回 ・ 無
	51 上の間で機会のある方:誰と?主な相手に○,それ以外に○を 有上面这样的机会的人:请回答和谁? 主要对象上划○,其他对象划○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本で別居の家族 ・ 在日本の親戚 ・ 在日本の友人知人同僚 ・ 在中国の家族 ・ 在中国の親戚 ・ 在中国の友人知人 ・ 支援団体職員や講師 ・ その他(具体的に_____)

資料1

	52 日本で同居の家族以外と、中国語で口頭や電話で話す機会は？(挨拶以外で) 1つ〇 在日本，有与同居家属以外的人用中文对话或打电话的机会吗？(除了打招呼以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日 ・週に2-3回 ・月に3-4回 ・月に1-2回 ・3ヶ月に1-2回 ・半年に1-2回 ・年1-2回 ・無
	53 上の間で機会有の方:誰と？主な相手に◎、それ以外に〇を 有上面这样的机会的人:请回答和谁？ 主要对象上划◎,其他对象划〇	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で別居の家族 ・在日本の親戚 ・在日本の友人知人同僚 ・在中国の家族 ・在中国の親戚 ・在中国の友人知人 ・支援団体職員や講師 ・その他(具体的に_____)
日本語環境	54 仕事以外で、日本語で微信やLINE等でメールのやりとりをする機会は？ 除了工作上的需要以外有通过LINE 微信等互相打日文短信的机会吗？	<ul style="list-style-type: none"> 毎日 週に2-3回 月に3-4回 月に1-2回 3ヶ月に1-2回 半年に1-2回 年1-2回 無
	55 上の間で機会有の方:誰と？主な相手に◎、それ以外に〇を 有上面这样的机会的人:请回答和谁？ 主要对象上划◎,其他对象划〇	<ul style="list-style-type: none"> ・在日本の家族 ・在日本の親戚 ・在日本の友人知人 ・近所の人 ・役場/病院/買い物等 ・子孫の同級生の親 ・子孫の学校や習い事の先生 ・支援団体職員や講師 ・その他(具体的に_____)
	56 仕事以外で、日本語で口頭や電話で話す機会はありますか(挨拶以外で) 除了工作上的需要以外有用日语对话或打电话的机会吗？(除了打招呼以外)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日 週に2-3回 月に3-4回 月に1-2回 3ヶ月に1-2回 半年に1-2回 年1-2回 無
	53 上の間で機会有の方:誰と？主な相手に◎、それ以外に〇を 有上面这样的机会的人:请回答和谁？ 主要对象上划◎,其他对象划〇	<ul style="list-style-type: none"> ・在日本の家族 ・在日本の親戚 ・在日本の友人知人 ・近所の人 ・役場/病院/買い物等 ・子孫の同級生の親 ・子孫の学校や習い事の先生 ・支援団体職員や講師 ・その他(具体的に_____)
	57 今日日本語以外で特に心配な事を3つまで〇を 关于日语以外的现在最大的烦恼,最多选择3个	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と配偶者の健康 ・父母世代の健康や介護 ・キャリアアップ(职业发展) ・ビザ(签证)/国籍 ・現在の経済上の問題 ・現在の住宅問題 ・老後の住宅問題 ・老後の生活保障 ・子どもとの意思疎通(与孩子沟通) ・子どもの教育/進路(出路)や将来 ・親との意思疎通(与父母沟通) ・夫婦間の意思疎通(夫妻俩之间的沟通) ・その他(具体的に_____)
中国往来	58 中国への往来頻度:1つ 去中国的来往頻度:选择一项	<ul style="list-style-type: none"> ・年に5回以上 ・年に3-4回 ・年に1-2回 ・数年に1回位 ・10年に1回位 ・20-30年に一回位 ・一度もない(一次也没有)
	56 中国渡航の主な目的に◎、その他の目的に〇を 去中国的主要目的划◎,其它目的划〇	<ul style="list-style-type: none"> ・探亲(家族や親戚訪問) ・護理家人(家族の介護や看病) ・訪問熟人朋友(友人知人訪問) ・出差或驻中国(出張や駐在) ・観光 ・其他(具体的に_____)
支援	59 帰国者二三世に対してどんな支援が必要？3つ迄〇 针对遗华日本人二三代的支援,请选择您认为最重要的3个	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習 ・キャリアアップ(資格取得等) ・就労斡旋 ・介護 ・医療 ・精神保健 ・二三世同士の連携 ・子や孫の教育や進路 ・情報入手 ・その他(具体的に:_____)
歴史背景	60 中国残留邦人の歴史背景についてどの位ご存じですか。1つに〇を 对遗华日本人的历史背景您知道多少呢？	<ul style="list-style-type: none"> ・よく知っている(知道得很多) ・ある程度知っている(多少知道) ・少しだけ知っている(知道一点点) ・殆ど知らない(几乎不知道)
	61 上で「少し」殆ど知らない」と答えたい方:知りたいと思いますか 上面回答"知道一点点/几乎不知道"的人请回答:想不想了解？	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく知りたい ・多少は知りたい ・少しだけ知りたい ・知りたくない (非常想了解) (想了解多少) (只想了解一点) (不想了解)

ご協力に感謝します！返信用封筒かwebでご返送下さい。谢谢您的协助!!请用附寄的信封或上网回复。

資料2

自由記述文(注:日本語のものと中国語をこちらで翻訳したものが混在している) 到着順。複数項目に跨る要望が多いため分類せず
自分の努力で人生を変えてきました。
国からの支援がもっと欲しいです。
日本に帰国長かったのですが、知らない事がいっぱい有って、常に相談できる人居れば助かります。主に親の介護や福祉の相談です。
日本に帰国して28年、夫婦二人でずっと働き続け、ずっと年金も払ってきました。現在多少の年金を受け取っていますが、仕事を辞めたら、このわずかな年金でどうやって生活をしていけばいいのか、というのが今最大の心配です。😞
高齢になる親(一世)の介護問題,別居で仕事の都合上週末にしか様子を見にいけない。
公正で平等な対応をお願いしたいです。日本語が不自由なため、年金が足りないのは当たり前といえます、ですから老後にそれ相応の補助をお願いしたいです。
年を取った2,3世は定年退職後,子供たちも巣立ち,孤独している方は増えていると思います。中国語環境の交流の場は少なく,増やせるといいなと思っています。
日本語に困っている人が多い
日本語能力を高めるための学習の機会がほしいです。
ありがとう。満足しています。
私たち二世ももう中年になりました。若いときはずっと日本で毎日一生懸命にやってきましたが、今は少しのんびり暮らしたいと心から思います。けれど日本にいてとても寂しいです。仕事以外なんの趣味も人との付き合いもない。今後日本でどうしたら元気で楽しい老後を暮らせるのか不安です。病気になるのも心配、仕事がないのも、人との交流がないのも心配です。
就職のキャリアアップにつながる学習の提供が必要があると思います。日本語の勉強勿論ですが、二世で年金の加入をしない人もいるため、今後、定年後の生活が心配です。
私は子どもが二人いますが、長女は今年4月から大学へ進学することになり、経済的に大きな負担になります。日本の大学に置く残留邦人三世に対しての特別な応募体制があれば、是非教えて頂ければ幸いです。または、三世に対して進学後の奨学金制度(帰国者支援関連機構から、若しくは国から)があるでしょうか? 来年から長男も同じく大学進学する予定です。
いつにお世話になっております。資格取れる勉強ができればありがたいです。
自分の力で生きるのが一番ですが、周りの交流も大切です。
残留邦人の二世三世の年金支援政策についてお尋ねしたい。
年金について、本国にいる日本人より支払い年数が少ないため、老後支給される年金が少ないです。何か支援制度はないですか?
今、日中関係が良い方向に向かうようには思います、これからは日本語と中国語両方できる我々が活躍する時代だと期待していますが、日本語と中国語両方話せる人材が欲しい企業と我々の間の橋渡し役を果たして欲しい
いつもお世話になっております、これからもよろしくお願ひします。
お手伝いになる事が有りましたら、私に出来る事が有りましたら、お手伝いしたいと思います。
帰国者二世三世として、責任は重いです、老人達に面倒して、子供達に育て、自分のお身体に、老後の保障に、生活面に、精神面に、いろいろな事を心配しますが、できれば、相談所に成立して相談員がいると、問題に解決して、帰国者二世三世が少し安心感にあると思います
医療について私たちは3割負担です、この負担は重いです。なぜなら健康と老後の生活(年金など)に不安があるからです。
外国人(外国籍)なので、仕事を選ぶにも制限があつて収入も低く、日本での生活は苦しいです。政府が医療と年金の面で多くの補助をしてくれるよう希望します。
三世に気にすることが不足です。
うちの息子が脳卒中で片麻痺になりました。お嫁さんも子宮筋腫で手術されました。
帰国者二世たちはもう50代になりました。帰国後、年齢の問題(30代)や言葉の問題で、年金に加入した人はすくないです。老後の生活が問題です。一世の国民年金を参考にして、二世たちにも老齢基礎年金等の救済策を講じてほしいです。
残留邦人はどんな人ですか。残留邦人の法律のルールについてほしいです。お願ひします。

資料2

配偶者が一人子で親の介護がとて心配しています。配偶者の親を日本に呼び寄せて面倒を見たいですけど、どういふ手続きをすればよいですか。また条件があれば教えてください。

仕事ができなくなったとき、生活の保障がないことが心配です。

二世が日本にきて、すごく苦勞している人が多いので ぜひ二世にも経済的な支援をしてほしいと切に願う。

二世たちの年金を適当的に上がって、2万円でもいいけど。帰国者特別年金と言ひ、特別措置をしてほしい。よろしくお願ひします。

老後年金は少なく、各費用が支払いましたら、生活費が足りない。政府が二世に対する老後の支援政策が必要だと思う。

子どもの学費は足りない

日本に来てから間もなく病気にかかってしまい(総合失調症)、病気を患いしながら仕事をした。13年前仕事を辞めさせられた。現在、病氣療養中、障害基礎年金を受け始めた。中国に妻と娘がいます。妻が仕事はないです。

私たちが日本の社会に真に溶け込めるよう支援してもらえないでしょうか。

年取って、生活保護を受けています。日本語を勉強したいですが、日本語学校へ行く交通費高いです。自治体の市役所は支援もらえないです。よろしくお願ひします。

専門的な資格を取るための日本語教育と専門知識クラスを開くことを支援してほしい

二代目の帰国者の多くは中国で生まれ、生活習慣は日本人とは違っています。今後の老後について心配しています。

帰国者二世は歳をとり、70代になった人もいるし、50代やと60代の人が多いです。知っている範囲で、その人たちは90%生活保護に頼って暮らしています。皆くるしいです。長崎帰国者二世会の全部の人は一世と同じ待遇にさせていただくことを希望します。二世に給付金制度を導入し、墓参りや家族訪問などに関する交通費を支援してほしいです。

今現在、問題と困難は以下の通りです。

1,市役所の各活動は通知をもらえないです。支援相談員が私利を計って不正を働く、日本語勉強会にはただ4,5人の仲間を集めて、たくさんの方が参加できなくて、長い間勉強できないのです。長年訴えているのですが解決されていません。

2,年金の問題 …今まで加入した年金が引かれているので返してほしいです。物価が上がっているのに、生活費は減っています。これでは生活ができません。

3,墓参りに関して …中国に行かせてほしいです。その交通費を支援してほしいです。 よろしくお願ひします。

センターはいつも中国残留孤児のためにご尽力して頂き、心より感謝いたします。

老後は、国が生活面の保障をしてくれるよう希望します。

老後の生活支援をいただきたい

不安を深く感じます。自営業者なんて、収入は高くなく、年金はなく、でもしょうがないです。一生余暇、一生仕事。

年金が少なく、自営業に関する経験が少なく、毎日不安な生活を送りますが

残留孤児二世の心の声

歳は争えず、二世もますます高齢化し、最高年齢は70歳余り、50～60歳が最も多い現状です。大多数が日本語が話せず、仕事が困難で、まともな仕事に恵まれず、職場で蔑視されるなどの原因で、現在大部分が生活保護を受けています。

1,二世の生活が、孤児と同様の待遇になるよう、給付金制度を実施してほしいと強く要求します。

2,物価が年々上昇するので、生活費は年々切り詰めており、生活が大変苦しくなっています。

3,年金問題。私は年金に加入しましたが、年金を受け取る時になって、生活費から差引かれ、もらうべき年金に達しません。私たちには日本人の血が流れており、日本国籍も取ったのに、日本人の待遇と同列に論じてもらえません。

4,二世と二世配偶者が中国の親戚に会いに行くのに、毎年一回の交通費(を出してほしい)。

5,国費帰国と自費帰国ではどうして待遇が違うのか。国費帰国の人は、公的機関が開催する無料の日本語学習、交流会、旅行等に参加できるのに、自費帰国の者は入れてもらえない。これはなぜか?

6,拉致問題について。拉致は個人の問題なのに、彼らはどうして残留孤児よりずっと良い待遇なのか。残留孤児は国の政策によって発生したもので、拉致と残留孤児は性質が違う。なぜ残留孤児は同情を得られないのか?

7,日本政府に懇願したい。残留孤児が遭遇した苦勞や二世の様々な当惑について、常にマスコミを通じてありのままに報道してほしい。そして残留孤児と二世を公正に扱ってほしい。

残留孤児二世の本音

すべての孤児二世が強く望んでいるのは、生活待遇が孤児世代と同様になるよう給付金制度を実施してほしいこと。二世が中国の親戚を訪ねる権利を認め交通費を支給してほしいこと。

1,生活保護受給者は中国へ親戚を訪ねる権利を奪われており、中国へ行っている間は生活保護費を差引かれ、生活費外と計算される。交通費を支給するなどは問題外といわれる。

資料2

- 2,生活保護受給の二世は、中国への親戚訪問、あるいは配偶者の親戚の来日を拒絶される。
- 3,消費税が上がり物価も上がっているが、生活保護費は上がらず、むしろだんだん減少していて、本当に生活が苦しい。日本人はお金があるので家族や子供を連れて遊びに出かけることができる。けれど私たち生活保護受給者はそれができない。子供をかかえてなんとかやりくりし、子供をなだめるが、時に子供に「どうしてあの人達のようにできないの」と聞かれても、答えられない。私たちは仕事をする能力がないのではなく、病気があるのと日本語ができないために、様々な困難に出会うのだが、子供には説明できない。
- 4,残留孤児と拉致被害者の生活待遇は大きく違う。拉致は人によって発生した悲劇だが、残留孤児は国家の政策がもたらした結果だ。政府は平等に扱ってほしい。

一世の受けた被害は二世も同様に受けており、二世の配偶者も肉親から引き離されるという問題に直面し、会いたくても会えず、結婚したくても結婚できず(=嫁探しも自由にできず)、辛い思いをしている。両親の病気が重くてもすぐに駆け付けることはできず、ときには最期に会えず、一生の悔いが残ることもある。

- 5,政府に要求したい。マスコミを通じて残留孤児についてありのままに報道し、その災難に責任を持ってほしい。また二世世代も苦勞を負っているので、残留孤児とその二世に対して公正な扱いを希望する。
- 6,私たちは日本国籍に入ったが、日本人はいつまでも私たちを中国人だといい、日本人の中で日本人と認めない。中国でも私たちを中国人とは認めず、私たちを華僑という。いったいどこの国の人間だということか？

8年前に交通事故に遭いました。今障害等級3級で通院して治療しています。夫の収入がとても少なくて、困ってます。

二世は国費帰国と自費帰国では待遇が不公平です。
新たな支援政策で高齢の二世を援助し、将来の不安をなくしてほしい。

- 1,同じ二世なのに、なぜ違うのか？ 学習のための交通費は、国費帰国の人は実費だが、自費帰国の者は限度額があり出席証明書も違う。国費帰国だと医療通訳が付くが、自費帰国には付かない。季節になると(毎年?)収入認定を書かなければならないが、私たちは皆70歳代で、何も無い。家も財産も仕事もない。
- 2,生活は年々苦しくなる。日本に来たばかりの頃は物価も安く生活水準もまあまあだったが、今年は物価が上がり、特に災害の時は野菜の値段が高騰した。ほかにも水道電気ガス代金など。以前下水道は無料だったが、今は有料だ。私たちは65歳で介護保険費を引かれ、70歳で生活費を引かれ、税金は増え、何でも値上がりし、生活はひどく苦しい。これは日本政府が私たちを早期に帰国させたために起こったことだ。
- 3,政府に監視されている生活。
- 4,高齢の二世は、何を学んでも重要ではない。なぜなら歳をとると記憶力が減退し、体も弱る。

先生、こんにちは。このような形で私の悩みを書いてお伝えすることをお許してください。私は確かな答えがほしいのですが、誰に聞いたら答えてもらえるのかわからないのです。

私は二世配偶者で、来日して10年余りたちます。この10年来、私と夫は苦勞に遭いながらも努力で解決してきました、今最大の悩みは、中国の両親が世話を必要としていることです。日本の家庭状況は、私が長期間中国に帰ることが許されない状況です。私の夫は帰国者二世で今年41歳、正社員で、朝早くから夜遅くまで働いています。ときに残業もあります。子供が二人いて、息子は9歳、娘は4歳です。日本の義母は帰国一世で70歳余りの高齢です。ですから私が世話をしなくてはなりません。中国の父母にとって私は一人っ子で、彼らもすでに65歳を過ぎています。父は痛風を患い両手とも変形しています。母は高血圧と心配性で、世話する人が必要です。中国に戻りたくても現実的には許されません。父母を来日させたくても、高齢なので飛行機に乗るのは大変で、来日しても3か月しかいられません。来日期間に発病すると保険もないので高額になります。このような状況で私も夫も大変悩んでいます。(解決のため)何か情報があったら知りたいと思っています。先生にご迷惑でしたら申し訳ありません。

二世の本音 …現在私たち二世の最高齢は70歳余り、50~60歳が最も多く、90%が生活保護を受けています。そしてたくさんの生活ぎりぎりの現象に出合っています。〇〇県帰国者二世会は全員一致で強く要求します。生活待遇改善のため一世と同様の支援給付金制度の実施を。

- 1,市役所の開催する各活動は連絡がない。市役所の通訳は私利をはかり不正行為をし、結託する。たとえば日本語学習も、参加を許可するのは彼女の友人関係の4,5人のみで、住まいが近くでも交通費を支給し、非常に不合理。
- 2,物価が上がり、(支給される)生活費は年々下がるので、生活水準は年々下がる。
- 3,自分が払った年金も生活費で差引かれ、私たちは日本国籍なのに待遇は日本人と違う。
- 4,清明節を父母を祭る休日にし、交通費の補助を支給してほしい。

学習に関して、詳しい説明をしていただけませんか。例えば、学習の方式、内容等

二世三世が安心できる暮らしを支援してほしい。